

# 山 ゆ り

9-10月号 No357 2014年9月1日

初号発行:1972年12月25日

山ゆりの会(尾瀬の自然を守る山ゆりの会)

年会費1000円(郵便口座00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西2-25-16 草野正昭

Tel/Fax:045-364-6515 メール:VZM03024@nifty.com

URL: http://homepage3.nifty.com/yamayuli/



## 6月山行 横浜市最高峰の大丸山へ

参加者:大野 曾根 松田 田村 黒羽  
和田 河野 河又 豊留 大内 磯部  
上野 草野 ほか1名(14名)

●露の晴れ間というよりも真夏日になりました。初参加者もいて参加者はいつもよりも少し多く14名。

港南台の集合には水環境の加藤さんが資料を持ってやってきました。このルー

トと入り口の上郷地区は素晴らしい自然が沢山ある所、そこを東急が開発をするべく動き、没になり、また動きが有りとな郷の自然が失われそうです。

高校の横道を少し下るとせせらぎの有る道にでます。せせらぎ沿いに進むと大木のグミの木がたわわに実を熟させている。またすすむと今度は梅の木です。正に里山そのもの、川が流れ田んぼには稲が植えられ、シオカラトンボが沢山とんでいました。夏の夜にはホタルも観る事のできる場所です。

瀬上池を見て、沢をつめる、本日一番の急登を上りきると平らな尾根道へ、そこから横浜市の最高峰の大丸山156mへ、山頂は日陰がないので、次の見晴台で昼食休憩。昼食後、鎌倉側の尾根道に入ると流石に人も沢山いる。天園の茶店でアイスを楽しみながら一息付き建長寺へ。先行の河野さんがイワタバコの群落を発見、岩の壁一面に満開に咲くイワタバコは見ごたえが有りました。少し下ると建長寺、ここで解散。北鎌倉に出て、横浜でお疲れ様の乾杯をして家路に着きましたが、万歩計は28000歩でした。

(和田悦子)



6/15 横浜市最高峰・大丸山山頂で

## 車山－蓼科山

4月26日－27日

●ゴールデンウィークに何処か丹沢でなく、もう少し高い山に登りたいなと思っていたので、喜んで参加。蓼科山と云えば昔若い時に登ったなと思い、ふるい山日記を調べたら、51年前のS38年5月1日の夜行で新宿23:45で茅野5:50着で親湯までバスに乗り、蓼科山登山口から登り、山頂から馬返し経由で樽ヶ沢温泉に降って泊まり、翌日白樺湖に出て車山に登って強清水より上諏訪に出たとの記録があり、蓼科山のキツイ登りと山頂の岩だらけの記憶を思い出しました。

今回は自動車組と電車組と二手に分かれ、茅野駅で車に合流し、白樺湖経由で車山山麓に到着、計画書では女神湖しか記入してなかったの、駐車場前にリフトが山頂まで乗って登って行けると思っていたら、リーダーより歩いて登るとの説明、電車組のメンバー3人が「聴いてないよ」と悲鳴。暫く登って白樺湖を眼下に見える高地で早めの昼食、湖の上側には明日登る蓼科山をはじめ北八つから南八つ岳までの雪をかぶった連山が、特に南の赤岳が槍ヶ岳ほどではないが、尖がって見える。4年前の夏と年末に続けて登ったのを思い出す。昼食後暫く平坦な登山道を歩くとスキー場の中間に、そこから急登、途中雪渓を登ったり階段を登ったりして山頂へ、山頂にはおおきな丸いアンテナがあり、集合写真を撮って、元の登山道を降る。リフト料金は往復1600円でしたので、体のエネルギー代と考えました。

宿は女神湖のすぐ近くで「すずらん荘」という民宿でした。可愛い犬の親子の出迎えで、夕食で車山の疲れをビールで癒して9時前に就眠。

翌朝8時に出発し、7合目に向かう、その手前の駐車場で通行止めとなって多

くの車が駐車していましたが、車止めの脇を通り抜け更に上り路面全体が雪でそれ以上行けないのでそこに停める。登り口の標識に従って歩き始める。雪も多くなり勾配が強くなる馬返し手前でアイゼンを装着する。

馬返しから先がどんどん急登となるが、踏み固められているせいで、アイゼンもきいてゆっくり登る。私が皆より遅れてあとを追いかけるが、昨日の足慣らしが効いたか、何とか皆に10分ほど遅れて將軍平に着く。蓼科山のちょうど肩にあたる場所で、蓼科山荘があり、そこでサングラスを購入する。

頭上を見るとかなりの急勾配で、途中から樹林帯がなくなり、真っ白な雪の急斜面で、改めて気合いをいれて登る。気温が上り雪も緩んでいる為、途中何度か脚元が滑りながら、喘ぎ喘ぎゆっくり爪先から踏み込んで登る。30分以上頑張るとようやく平坦な上に出る。少し歩くと標高2530mの山頂に着く。

山頂からは北・南八ヶ岳連山が目前に、遠く南アルプスの甲斐駒ヶ岳や白峰三山など、雪を抱いた山々が素晴らしい。それを眺望しながら宿で頼んだお握りを美味しく食する。

集合写真を撮ってから下山を始める。樹林帯になる手前で、二度ほど滑って尻滑りして、前の人に当たりそうになり、踏ん張って何とか止めたりして將軍平へ、そこでゆっくり休憩。

將軍平から馬返しまでも急坂の雪面を踵から踏み込んでゆっくり降る、皆さんより遅れて7合目の鳥居をくぐると舗装道に着く。アイゼンをはずし、一休みして車のところまで5分ほど山道を降る。

車で途中、日帰り温泉により、疲れを癒して、そこで解散する。

(田村 清)

●「特別山行、蓼科山」4月26、27日  
蓼科山へ。茅野駅下車、車組とここで合流。車で白樺湖畔を通り車山高原へ。今日は車山山頂までハイキングです。スキーシーズンの終わったゲレンデ脇を登り始めた時、枯れ草を踏む私達の足音に驚いたのでしょうか？ガサガサと音をたてながら走れる物体が。急いで足元から目を上げその姿を確認したところ、茶色の野うさぎでした。さっき歩きながら“ピーターラビット”の話をしていたので、まさか物語の中から出てきてくれたのではと…ハイキングコースをショートカットして雪の残るゲレンデを登りつめると車山山頂です。車山神社の小さな祠があり、今日、明日登山の安全をお祈りし、しばし360度のパノラマを目に写し下山。本日のお宿女神湖湖畔の民宿へ。

27日の早朝は女神湖遊歩道一周です。湿地の所には木道が整備され水辺には小さな水芭蕉、座禅草も見れました。湖面は静かでまるで鏡のようです。これから登る蓼科山も、昇り始めた太陽も、湖面に浮かぶボートたちもくっきり写しだされていました。湖畔一周30分程でしたが、朝の冷たい空気を胸一杯に吸い込み満足、満足。

車で蓼科山7合目登山口へ。鳥居をくぐり登山開始。残雪の登山道です。アイゼンを着けて雪を踏みしめて歩き始めます。私にとって雪道はなぜかワクワクしてきます。山ゆり山行初めての山が尾瀬で、その時雪道を歩き山登りの楽しさに惹かれ山ゆりに入会した事が思い出されます。踏み跡に足を置き雪に足を取られないように前進。心拍数がだんだん上がって体がきつくなってきました。

将軍平にある蓼科山荘で小休止。山頂を見上げるとかなりの急登。そこを登って行く人が小さく見えます。「30分で

登れるよ」とリーダーが。えーっ、こんな絶壁のような所私に登れるのかな〜と不安に思いながらもアタック。前を行くデコちゃんの踏み跡通り登って行ったら、急登なんだということをつっかり忘れ難無く山頂へ。岩石がゴロゴロした広い山頂。少し霞んではいましたが、景色を見ながらの昼食。山での食事は間違いなく「美味しい」。さて程なく下山です。私の苦手な下りが待っています。上から見ると私にはほぼ垂直に見えます。一步一步足元を確かめて歩を進めます。雪があるせいか、あまり怖さを感じなく下って行く事が出来ました。出発点の鳥居をくぐり、無事下山出来た事をお礼をし帰路へとつきました。楽しい思い出の山行がまたひとつ増えました。（稲本なお子）

### ●百名山完登に王手

5月17日西丹沢自然教室から桧洞丸を経て蛭ヶ岳一丹沢山一丹沢三峰から宮ヶ瀬湖に下るコースを歩いてきました。

平成13年山ゆりでヤシオツツジの見事な景色と皆様の賑やかなおしゃべりに励まされなんとか登ったことを覚えています。今回は桧洞までは私が所属するもう一つのグループと一緒にでした。まだ早かったのかヤシオツツジの花がちらほら咲く程度で以前の感激はありませんでしたが足元には白いワチガイソウが咲いていました。

展望園地で富士山を眺めながら昼食、そこからの急坂を1時間近くかけ山頂へ、ここで仲間と別れ蛭ヶ岳に向け金山谷乗越へと急降下。桧洞では大勢の人で賑わっていたのに人影が見えず少々心細くなりました。臼ヶ岳近くでやっと2組の登山者追い越しました。臼ヶ岳からの下りでのんびり草を食べている鹿の親子に

で会い、蛭ヶ岳の最後岩場を鎖を使って登っていると思いがけなく小さなコイワザクラが岩にしがみつくと同時に咲いていました。3時半頃蛭ヶ岳山荘に着きました。

翌朝朝日に照らされ光る下山口の宮ヶ瀬湖を確かめ6時前に出発しました。

「蛭ヶ岳山荘に泊まるよりみやま山荘のほうが食事がいいよ。」と言われましたが富士山をはじめ愛鷹連邦や南アルプス、相模湾、房総半島のすてきな景色と心地

よい風の後押しされて丹沢山へと進み咲き始めたシロヤシオを見ながら丹沢三峰のアップダウンを本間ノ頭まで繰り返し、宮ヶ瀬三叉路へ下りました。目の前を本厚木行きのバスが走り去ってしまいましたが、1日目8、6キロメートル、2日目14、3キロメートルの道のりを好天に恵まれ歩けとても幸せな気持ちになりました。最後の奥穂はこの夏挑戦する予定です。(曾根弘子)

---

### ■ 9月山行 9月21日(日曜日) 石老山 572m ★+

1989年以来25年ぶりである。朝のNHK連続TV「花子とアン」の「蓮さま」・柳原白蓮(宮崎燐子)の墓がコース途中の顯鏡寺にある。戦後「悲母の会」を結成、国際的な平和運動に身を捧げた白蓮を振り返るのも一考かと。

- ・集合：JR中央線 相模湖駅 朝9時
- ・持ち物；昼食、雨具など

### ■ 10月山行 10月18日(土曜日) 上州・赤城山 1828m バスハイク★+

10月は紅葉の赤城山ハイキングです。今回は貸切のマイクロバスで往復します。参加者12名以上を確保したいと思いますので是非参加ください。

- ・集合：朝6:30 横浜駅西口天理ビル前 (詳細は別途)
- ・事前申し込み：和田さんへ(045-303-6380) 先着16名で締め切り予定。早めに。
- ・参加費：10000円(余剰の場合実費精算) 持ち物：昼食、雨具など

---

### ■ 例会の予定

- ・9月24日(水)：9月例会
- ・10月21日(火)：10月例会

**あとがき** ・前号で大飯原発の再稼働差し止め裁判での福井地裁の画期的な判決について若干の解説をした。その後、原子力規制委員会は、鹿児島島の川内原発の安全審査に合格を出した。その際原子力規制委員会の田中委員長は、新しい安全審査基準に合格したのであって、川内原発の安全性を保証するものではない再三にわたってくぎを刺す発言。一方安倍総理は、世界一厳しい安全審査をクリアしたから安全が保証されたとし、再稼働に突き進む姿勢を露わに。首相発言の世界一厳しい安全審査をクリアしたから安全だというの

は正に新たな安全神話の始まりだ。安倍総理には福井地裁判決は猫に小判ということか。 ・この間の大きな出来事は何といても集団的自衛権の閣議決定。内閣が閣議だけで決定したことに、憲法九条改憲論者からも批判が。安倍総理はこれで国民の安全・安心が守られると自負するが、多くの国民は逆に危険に晒されると感じている。 ・8月9日の原爆記念式典での平和宣言で田上長崎市長は、憲法九条の「戦争をしない誓い」が揺らいでいると、安倍政権の集団的自衛権行使容認の閣議決定に対して明確な批判メッセージを世界に送った。6日の広島での首相挨拶は昨年のコピペであるとの批判もネットで広がっている。

・敗戦日廊下の奥に立つ何か 【K】